

博物館からのお知らせ

博物館講座

7/21 **標本講座**「昆虫標本をつくろう①」
7/28 **標本講座**「昆虫標本をつくろう②」

身近な昆虫を用いて標本の作り方と標本を作る大切さを学習します。

時 間 9:30～12:00
 対 象 小学生以上
 場 所 研修室2・神宮の森
 募集期間 ①6/23(土)～7/ 7(土)
 ②6/30(土)～7/14(土)
 定 員 20名



7/29 **標本講座**「押し葉標本をつくろう」

標本の採り方、押し葉の仕方、台紙への貼り方を実際に体験しながら学習します。

時 間 10:00～12:00
 対 象 小学生以上
 場 所 研修室2・神宮の森
 募集期間 7/1(日)
 ～7/15(日)
 定 員 20名



7/30 **標本講座**「化石標本クリーニング体験」

採集した化石を取り出すクリーニング作業を体験し、化石標本のつくり方を学習します。

時 間 10:00～12:00
 対 象 小学生以上
 場 所 研修室2
 募集期間 7/2(月)
 ～7/16(月)
 定 員 20名



8/10 **博物館こどもDAY**

子どもたちを対象に自然や歴史に親しんでもらえるように、さわれる標本などのミニ展示やミニ講座を行います。

時 間 10:30～15:30
 対 象 幼児以上
 場 所 エントランス他
 事前申込みなし
 定 員 なし



8/18 **採集作品の名前を調べる会**

夏休みに採集した植物・昆虫・貝・岩石・化石の名前を調べます。

時 間 9:00～15:00
 対 象 小学生以上
 場 所 情報室
 事前申込みなし
 定 員 なし



8/25 **ワークショップ** フスマの下張り
文書はがしに挑戦!

民家にあったフスマを解体して、下張り文書をはがす作業を体験し、資料保存について学びます。下張り文書は近世または近代の資料、何が出てくるかは楽しみです!

時 間 13:30～15:30
 対 象 小学生以上
 場 所 研修室2
 募集期間 7/28(土)
 ～8/11(土)
 定 員 25名



9/9 **小丸川下流域の考古学**
－弥生時代から古墳時代のムラと墓－

小丸川下流域の本館所蔵の考古資料や発掘調査された遺跡から弥生時代～古墳時代のムラと墓について学びます。

時 間 13:30～15:00
 対 象 小学生以上
 場 所 研修室1
 事前申込みなし
 定 員 40名



9/29 **みやざきの神楽を学ぼう**

宮崎県に伝わる神楽について、その歴史や特色について学びます。

時 間 13:00～15:00
 対 象 一般
 場 所 研修室1
 募集期間 9/1(土)
 ～9/15(土)
 定 員 40名



講座の申込みは、次の方法で受け付けます。
 詳細は、博物館にお問合せください。

①はがき ②FAX ③ホームページ
 ④来館時に総合案内

お問い合わせ TEL 0985-24-2071
 FAX 0985-24-2199

展示解説員の声

むかしの道具

春と秋の遠足シーズンになると、博物館はとてにぎやかになります。県内各地から見学にやってくる小学生の対応に、私たち解説員は大忙しの季節です。

学校からのご希望に応じて自然史、歴史、民俗の各展示室の解説を行っていますが、なかでも小学3・4年生におすすめするのは「昔の道具」の解説です。昭和30年代の住居や、実際にその時代に使われていたさまざまな道具を紹介し、一般の団体利用でも解説を受け付けています。豊富な民俗資料に囲まれた空間で、昔の生活を思い起こしてみませんか? (中原)



観覧時間・休館日のお知らせ

観覧時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休 館 日 毎週火曜日(8/14を除く)

★9/10～9/21は、館内燻蒸のため休館いたします。

博物館のホームページにはイベント情報、寄せられた質問とその答え、過去の「森の通信」、Facebook、ツイッターなどの情報が盛りだくさんです。ぜひアクセスしてみてください。

宮崎県総合博物館

検索

森の通信

第64号



自然と歴史の大発見
宮崎県総合博物館
 Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History

発行日/2018年6月14日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
 http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ FAX(0985)24-2199



むしむし虫展

～見る・聞く・触れる
 昆虫のふしぎ～

この地球は虫だらけ!?

昆虫は、地球上のすべての動物の約3分の2を占める約100万種が存在すると言われています。これほど多様化した昆虫たちの「ふしぎ」に迫るため、博物館では、**見る・聞く・触れる**といった五感をフルに活用して学ぶ、むしむし虫展を開催します。

注目は、「カブトムシの王様」ヘラクレスオオカブトに実際に触れることができるカブトムシの森を再現したコーナーです。また、おしゃれ虫として話題の「きらめく昆虫」の標本や専門家が収集した昆虫標本を数多く展示します。

この夏、君は、**昆虫に夢中虫!!**

虫が好きな人もそうでない人も、**決して無視できないむしむし虫展にぜひお越し下さい!**

ヘラクレスオオカブト拡大ロボット



世界のクワガタ



世界のチョウ



カタゾウムシ

開 催 期間 平成30年 **7月14日(土)～9月2日(日)** (休館日:8月14日を除く毎週火曜日)
 観 覧 時間 **午前9時～午後5時まで** (入場は午後4時30分まで)
 ※7月14日(土)は開会式のため観覧は11:00～
 会 場 宮崎県総合博物館 2階特別展示室
 主 催 宮崎県総合博物館 MRT宮崎放送 一般社団法人宮崎県教職員互助会 宮崎日日新聞社
 観 覧 料 有料 (大人**1,000円** 小中高生**500円** 未就学児 **無料**)
 お 問 合 せ 宮崎県総合博物館 電話 0985-24-2071



講座紹介

宮崎の天然記念物めぐり①～日向岬

「日向岬の柱状節理」は、平成30年2月13日に国の天然記念物に指定されました。当館ではこのことにちなんで、平成30年10月27日(土)に「宮崎の天然記念物めぐり」と題して、「日向岬」周辺を歩きながら、柱状節理や1500万年前に現在の細島沖にあったといわれる火山の活動について知っていただこうと、学芸員が地質学的な視点からわかりやすく解説する野外講座を計画しました。通常観光で訪れることの多い「馬ケ背」をはじめ、当日は北側の海岸まで下りて、柱状節理をつくっている岩石や溶結凝灰岩の堆積構造を詳しく観察します。高低差約60m、距離約2kmの行程で、海岸の足場の悪い場所にも行く予定ですので、健脚の方を対象にした講座です。

参加の募集期間は9月29日(土)から10月13日(土)です。定員は20名(小学生以上で小学生の場合は保護者も申込必要)で、未就学児の同行はできません。応募が多い場合は抽選となります。興味のある方はぜひ応募ください(詳細は当館のHPをご覧ください)。(松田)



日向岬

宮崎の自然

「湿原」に生きる食虫植物

宮崎には、国指定天然記念物の「川南湿原植物群落」をはじめとする湿原がいくつかあります。湿原とは淡水でしめった草原のことで、次々と水が流れ込んだり地下から水が湧き出たりするため養分の少ない環境です。そのような環境に適応した代表的な植物の一つに「食虫植物」があります。県内ではモウセンゴケのように葉の表面から出す粘液で虫を捕まえるものや、ふくろ状のわなで水中の微生物を捕まえるタヌキモのなかまが見られます。

「虫を食べる」というちょっと怖いイメージがありますが、養分が乏しい環境では他の植物との競争が少なくなる一方で、生長に必要な養分も少ないということになります。そのため、食虫植物は虫を捕らえ、消化することで栄養を補っているのです。湿原のように養分が少ないことで生きもののバランスがとれている環境に、人の活動で栄養分が流れ込んでしまうと、それまで生育できなかった生きものが入り込み、環境が変わってしまいます。食虫植物のくらしから、湿原も貴重な自然環境であることが分かります。(岩切)



モウセンゴケ

歴史展示室紹介

中世のくらし～生活と信仰～

歴史展示室の古墳時代のエリアを過ぎたところを歩くと、「木造地藏菩薩半跏像」(レプリカ、実物は^{もくぞうじざうぼさつはんかぞう}大光寺蔵)や「彦山寺板碑」(レプリカ、実物は^{いたび}えびの市東川彦山寺跡に所在)、坂本城跡(五ヶ瀬町)から出土した^{びちくせん}壺と^{びちくせん}備蓄銭などが見えてきます。「中世のくらし」と名づけたこのコーナーでは、12世紀から16世紀頃の“中世”とよばれる時代に生きた人々の日常生活や信仰について紹介しています。

交易がさかんに行われ、仏教が広がった時代の特徴として、コーナー手前のガラスケースには木製の^{はし}下駄や^し箸(レプリカ)、輸入陶磁器、^{きやうもん}仏教経文の一字を記した「一字一石経」などの資料^{わにぐち}を展示しています。これらの中で銅製の「^{わにぐち}鰐口」は、寺や神社の軒などに掛け、前面につした綱で打って音を出す道具です。永徳元年(1381)の制作年代が記された県内で2番目に古いもので、^{まいとく}義門寺(国富町)にあったことが確認できます。歴史展示室で、ぜひ実物をご覧ください。(^こ木)



「中世のくらし」コーナー



鰐口(永徳元年)

収蔵資料紹介

さんかくぶちしんじゅうきやう

三角縁神獣鏡(伝持田古墳群出土 径23.3cm 個人寄託)

国指定史跡持田古墳群(高鍋町大字持田)は小丸川下流左岸の標高50mの台地上に位置する4世紀前半から7世紀前半の古墳群で、34面もの鏡が出土しています。

今回紹介する舶載(中国製)「三角縁天王日月・獸文帯四神四獣鏡」は、断面三角形の高い縁をもち、「天王日月」の銘文を有し、「東王父」・「西王母」などの四神像と「龍」・「虎」などの四聖獣像を半肉彫りしています。この鏡と同じ^{いは}鑄型で作られた「同範鏡」が分有の中心である黒塚古墳(奈良県)・椿井大塚山古墳(京都府)などで出土していることから前期ヤマト王権との密接な関係がうかがわれます。卑弥呼が魏の皇帝からもらった鏡とされていますが、中国で出土していないことから邪馬台国の位置や製作地にからむ謎の多い鏡です。(長津)



利用者からの問合せ

くまそおどり

熊襲踊(県指定無形民俗文化財)とは、どんな民俗芸能ですか？

日本武尊が熊襲武を滅ぼした時、熊襲平定を喜んだ人々がありあわせのシュロ皮を身に着けて、酒宴で即興で踊ったという神話に由来すると伝えられています。竹編みのバラ太鼓を使うため「バラ踊」とも言われています。踊りは六つありますが、最後にバラ太鼓を叩きながら走り回り、折り重なって倒れる「カヤシベ」が一つの見所になっています。毎年、都城市庄内町の諏訪神社の秋祭りで奉納されますので、ぜひ、熊襲踊を見に行ってくださいね。(野添)

